

日本
経済
新聞

特報

ご購入・ご試読のお申し込み

☎0120-83-4946

<http://www.nikkei4946.com/tg/>

- 試読紙は、原則毎月10日～20日の間の合計7日間お届けします。
- 複数回の試読お申し込みは、お断りさせていただく場合があります。

NIKKEI NET アドレス

<http://www.nikkei.co.jp/>

米自動車救済法案が決裂

日経平均一時630円下げ

十二日の東京外国為替市場で円相場が一ドル九〇円を突破し、一九九五年八月二日以来、十三年四カ月ぶりの八八円台前半をつけた。米自動車大手の救済法案を巡る議会の調整が難航。米自動車大手の経営破綻の可能性が高まったとの見方から、米景気の先行き不安が強まり、ドル売りが膨らんだ。

海外のファンドなどのドル売りが集中。日経平均株価の急落を受け、株式の損失を穴埋めするためこれまで売っていた円を買い戻す動きも出た。九〇円の節目を突破したこと

で通貨オプション取引など円を自動的に買い戻す動きを巻き込み、円高に弾みがついた。円はユーロやオーストラリアドルなどに対しても全面高の展開となった。「米自動車大手が法的整理に進めば、株式市場や社債市場への影響が大きく、円高・ドル安に拍車がかかる」(バンク・オブ・アメリカの藤井知子日本チーフエコノミスト)との声も出ている。

金融危機が深刻さを増すなか、ドルはこれまで意外と堅調に推移していた。米国の金融機関や企業が手元のドル資金を確保するため、海外資産の回収を急いだためだ。しかし

雇用不安が一段と強まり、景気の悪化が再認識された格好。これまでに「円高・ドル高」の構図が崩れ、円の独歩高局面になる可能性がある。

十二日の東京株式市場で日経平均株価は五日ぶりに大幅反落した。下げ幅は一時六三〇円を超え、取引時間中としては八日(七九五九円)以来の安値を付ける場面もあった。午後に入って米自動車大手の救済法案成立が困難になったと伝わったほか、円相場が急上昇したのを受け、トヨタ自動車などの輸出株を中心にほぼ全面安の展開となった。

午後一時五十分時点の日経平均は前日比四五一円九八銭(五・一八%)安の八二六八円五七銭。

【ワシントン】大隅隆【米自動車大手救済法案を巡り米上院で一日、妥協案が浮上し

たが両党の協議が決裂、法案の審議は行き詰まった。十二日以降の政府支援を巡る審議のめどは立っていない。自動車大手の政府支援は白紙に戻った格好だ。民主党指導部は、ホワイトハウスと協議、金融安定化法を活用した新たな支援策も視野に入れ再調整を模索する構えだが、情勢は流動的だ。

上院では十一日、コーカー議員(共和)が代替案を提案。百四十億ドルの融資と同時に自動車大手は①債務(無担保)の三分の一を三月十五日までに減らす②従業員の人件費をトヨタ自動車、ホンダなど日本企業並みに引き下げるといった条件を求めた。

これを受け上院のドッド銀行委員長(民主)、コーカー議員らが超党派の協議を推進。民主・共和両党の議員、自動車大手三社、労組の代表者らがコーカー案をたたき台にした法案修正の非公式協議を続けた。ただ、給与カットを巡り労組との交渉が暗礁に乗り上げ、妥協案そのものの調整も決裂した。

円、一時88円台

13年ぶり円高水準